

<島根県高校総体特集>

第5弾
ボート



県高校総体ボート競技が雲南市と奥出雲町の間にある尾原ダム（さくらおろち湖）にて開催されました。今回はボート競技に注目したいと思います。

さくらおろち湖は平成23年に日本ボート協会B級公認コースとして誕生しました。レースは1000mで競われます。水位の変動が大きいので艇庫から栈橋までの距離が非常に長くなっています。艇を運ぶだけでも一苦労です。



階段が長く、運ぶのが大変ですが、みんなで協力して運んでいます。



栈橋の設置や会場準備も行います。

高校の大会はシングルスカル（1人漕ぎ）、ダブルスカル（2人漕ぎ）、舵手付きクォドルプル（^{だしゅ}舵取り声掛けの人+4人漕ぎ）の3種目があります。シングルスカルの長さは8mくらい、舵手付きクォドルプルでは12mもあります。シングルスカルは慣れてくると1人で運ぶこともできるようになります。



ボートは足が固定されており、シートが動くようになっています。一見、腕力が必要に見えますが、足や背中 of 力を使って艇を動かしています。陸でのトレーニングで使用する「ローイングエルゴメーター」は野球の強豪校でよく使用されています。アメリカ陸軍でもトレーニングに導入されているとか？



フィットネスジムにも置いてあることがあります。全身運動には効果的です。

審判員の「アテンション」「ゴー」のかけ声とともにスタートします。後ろ向きに進んでいくので、左右のブイを見ながら、コースをまっすぐ進んでいかなければなりません。相手もいますが、自分との戦いでもあります。

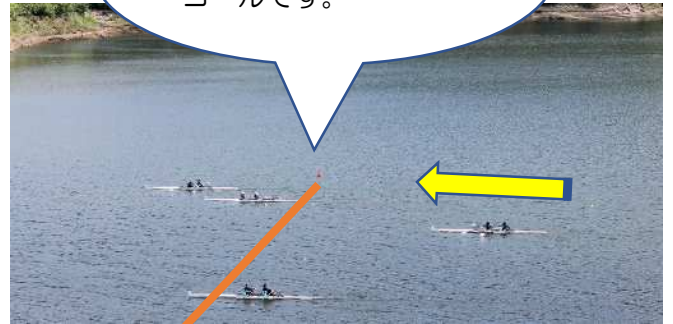


発艇員は「アテンション」「ゴー」の掛け声とともに旗を振ります。

ボートホルダーが艇を持ち、並ぶサポートをします。



位置を修正するよう審判から指示が出ています。



艇の先端が通過したらゴールです。

ゴールラインを通過しました。

1レース毎に風や流れが変わってきますが、3分10秒から4分30秒くらいかかります。

ボート競技は水上に浮かぶので、非日常空間を味わうことが魅力です。ダブルスカルやクォドルプルではみんなで動きを合わせることが難しいですが、動きが合った時には艇が大きく進んでくれます。風を切る爽快感は格別です。

観客席から見るときは一瞬で終わってしまいますが、各種目とも競ったレースは白熱して面白いです。コンマ差で決着がついたり、最後の最後に逆転したりと様々なドラマが生まれます。

一般向けのレースとして、松江や雲南、江津では市民レガッタも開催され(300~400m)、初心者でも安全にレースを楽しむことができます。一度、ボートを漕いでみませんか？

おまけ

高校生の種目にはありませんが、大学生や社会人のレースではエイト(だしゅ)(舵手+8人漕ぎ)の種目があります。



見ることができたらラッキー♡かも？